

たかつ生きもの探検隊 まとめ

- 1 開催日時 平成 27 年 10 月 4 日（日） 10 時 00 分～12 時 30 分
- 2 参加者 「エコシティたかつ」推進委員 4 名
 一般参加者（保護者 19 名含む） 41 名
 事務局等 4 名 合計 49 名
- 3 実施内容 10：00 緑ヶ丘霊園噴水広場集合・オリエンテーション
 10：30 生きもの採取・観察
 11：40 森の観察と林床の手入れ作業
 12：30 解散
- 4 講師 小林 範和 氏（NPO 法人鶴見川流域ネットワーキング事務局長）
- 5 当日の様子

(1) オリエンテーション

□開会あいさつ（高梨副区長）

□高津区の地形と流域

小林事務局長が、高津区の地形図と模型を用いて、地形と流域の関係について解説をした。

高津区では、「エコシティたかつ」として、高津区のまちが安全で、私たちや生きものにとって暮らしやすい環境になるようにさまざまな取組をしている。防災、環境、生きものを考える時に、地形は大きなポイントになる。また、地形を作る上では、水の動きが大きなポイントになる。

高津区の北東半分は平らだ。これは多摩川が作った地形だ。川は長い単位で見ると、あちこちに動いて流れる。その流れの中で、地形を平らに削った。昔の多摩川はもつと南側を流れていた。高津区の南西は凸凹した山になっている。この凸凹も、降った雨が削った溝に、さらに水が流れることで出来た谷だ。もともとは一つの山だったが、何千年という流れの中で地形が作られた。



日本に日本人が暮らす社会ができてから、今が一番木が多い。環境が悪くなっているのに木が減っていると思いがちだが、昔は木が燃料だったので木を伐って燃料にしたり、家を建てる材料にしていた。木が大きくなってそれは良いことだが、実は谷の

底が暗くなって、光があたらず、草が生えない。草が生えないと、雨の時に地面が滑りやすくなり、土砂崩れが起きやすくなる。暗いと生きものも暮らしにくくなる。木を伐って光をあてると、草が生え、生きものも暮らしやすくなる。



(2) 生きもの採取・観察

虫採り網とケースを持って生きものを採取した。最後に各人が採取した生きものの数、種類等を確認し、最も多くの数や種類を採った人に缶バッジを贈呈した。観察後は、採取した生きものを自然に戻した。



(3) 林床の手入れ

草地から間伐エリアへ移動する途中、湧き水を観察した。

アオキが密生すると林床に光が当たらなくなり、他の植物が生えなくなるため、間伐エリアに生えているアオキの駆除作業を行った。作業上の注意点として、アオキに似た

樹木を駆除しないよう、千両・万両との見分け方についても説明があった。アオキを減らすことで、明るい環境を好む植物が育つ。

アオキの駆除後、参加者全員で記念撮影をした。



(4) 湧水池の観察

今年2月に杭打ちをした、湧水池を観察した。池ができることで、オニヤンマ等が飛来する多自然型の環境が作られる。



(5) まとめ・感想

参加者が感想を述べて終了した。

【子ども】

・思ったよりも木が茂っていて楽しかった。

- ・虫とたくさん触れ合えて楽しかった。
- ・初めて知ったことがたくさんあった。
- ・ショウリョウバッタモドキが絶滅危惧種だということを初めて知った。ショウリョウバッタモドキについて、調べてみたい。

【大人】

- ・今まで外からしか見たことが無かったので、中に入れて楽しかった。
- ・いつもは大人の探検隊をやっているが、今年初めて小学校3、4年生を対象として開催し、大勢の人が参加してくれて良かった。子どもたちの笑顔が印象的だった。
- ・10年ほど前に高津区に越してきて、緑がたくさんあるのは知っていたが、こういった機会があり実際に触れることができて良かった。



2015/10/4 たかつ生きもの探検隊 観察記録

| No. | 科名 | 種名 |
|---------|----------|--------------|
| ・昆虫類 | | |
| 1 | バッタ | ショウリョウバッタ |
| 2 | | ショウリョウバッタモドキ |
| 3 | | ヒナバッタ |
| 4 | ヒシバッタ | ハラヒシバッタ |
| 5 | キリギリス | クビキリギリス |
| 6 | | ホシササキリ |
| 7 | コオロギ | エンマコオロギ |
| 8 | | ツツレサセコオロギ |
| 9 | ヒバリモドキ | シバズ |
| 10 | タテハチョウ | アカボシゴマダラ |
| 11 | | ヒカゲチョウ |
| 12 | | ツマグロヒョウモン |
| 13 | シジミチョウ | ヤマトシジミ |
| 14 | トンボ | ウスバキトンボ |
| 15 | カワトンボ | アサヒナカワトンボ |
| 16 | カマキリ | オオカマキリ |
| 17 | | ハラビロカマキリ |
| 18 | ゴキブリ | ヤマトゴキブリ |
| 19 | | モリチャバネゴキブリ |
| 20 | ハサミムシ | ヒゲジロハサミムシ |
| 21 | アメンボ | オオアメンボ |
| 22 | ミズムシ | コムズムシ |
| 23 | ヨコバイ | ツマグロオオヨコバイ |
| 24 | アオバハゴロモ | アオバハゴロモ |
| 25 | オサムシ | セアカヒラタゴミムシ |
| 26 | ドクガ | ドクガsp(幼虫) |
| ・甲殻類 | | |
| 27 | アメリカザリガニ | アメリカザリガニ |
| ・クモ類 | | |
| 28 | コガネグモ | コガネグモ |
| 29 | ジョロウグモ | ジョロウグモ |
| ・両生類 | | |
| 30 | アマガエル | ニホンアマガエル |
| ・類線形動物類 | | |
| 31 | ザラハリガネムシ | ハリガネムシ |



2.ショウリョウバッタモドキ

東京都等では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている昆虫。神奈川県でも数は多くない。



12.ツマグロヒョウモン

翅の端が黒いため“ツマグロ”。お供えの花に多く訪花していた。



17.ハラビロカマキリ

比較的森林環境の多いところで見かける、樹上性のカマキリ。名前の通り腹が幅広い。



31.ハリガネムシ

主にハラビロカマキリの腹の中に寄生する生物。他には、バッタ、コオロギ等への寄生が確認されている。